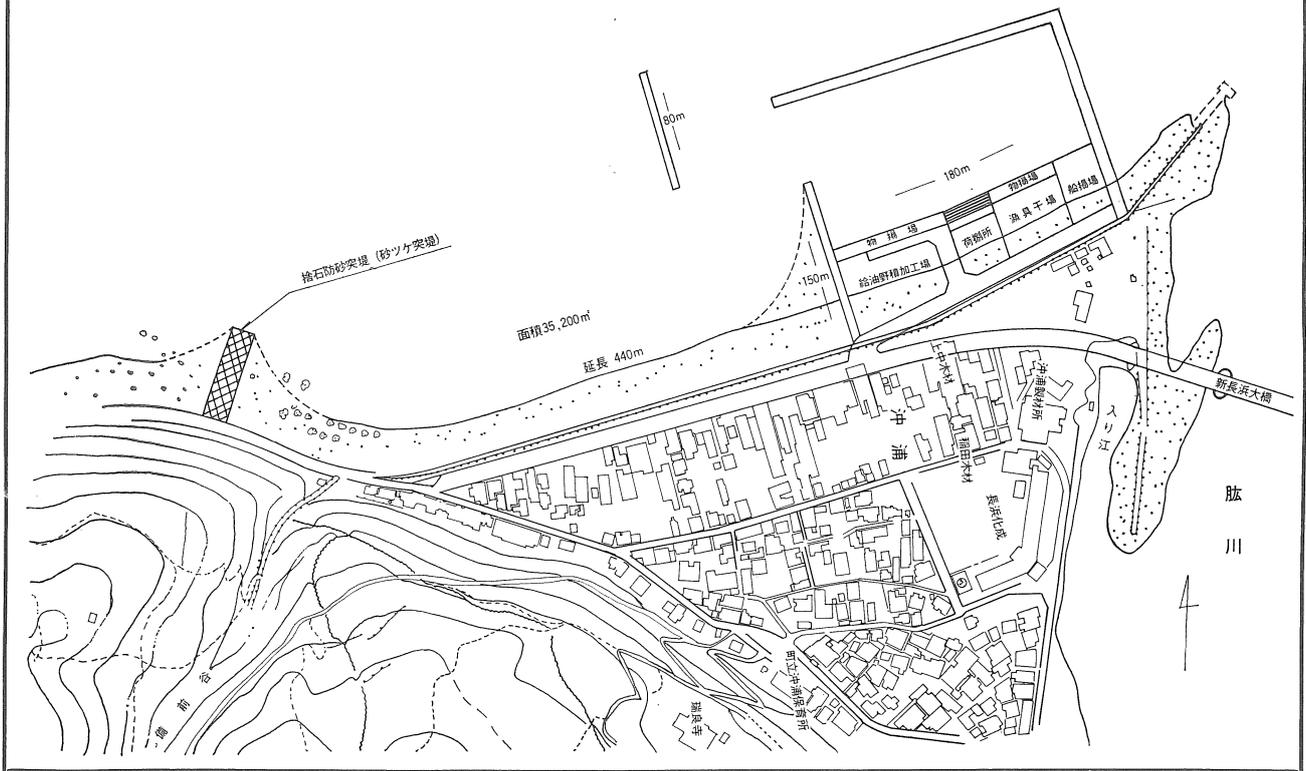


広報

号外

# ながしま

沖浦漁港 および海水浴場整備計画図



## 沖浦漁港つくります

### 海水浴場も整備

いま、長浜町では、地元（沖浦）漁民の強い要望にこたえて、長浜海水浴場でもある沖浦海岸の一部に沖浦漁港の建設を計画しています。

ところが、もうみなさんもご存知と思いますが、最近、町内の一部の方から、この漁港建設に反対する声があがっているようで、このことを報道した新聞によると、反対の理由として、海岸の景観がそこなわれる海水浴場が奪われる、漁場を漁民から奪うなどのことがあげられています。

そこで町では、これらの心配に答える意味も含めて、本紙号外をもって、この漁港建設の計画の実態をみなさんにお伝えすることにしました。最後まで目を通され、正しいご理解とご協力をお願いするしだいです。

# 沖浦漁港つくります…海水浴場も整備…

## 沖浦漁港建設計画とは

まず、なぜ沖浦海岸に漁港が必要なのかは後で述べることにして計画している沖浦漁港とはどんなものか、また、海水浴場との関係はどうなるかについて説明しておきたいと思います。

まず、建設する位置および港の形や広さは計画図(一ページ)の通りです。

### 海水浴場

## 形変わるが 広さ変わらず

次に沖浦海岸の全長は約五百メートルありますが、このうち海水浴場となっている海岸の長さは水泳禁止区域となっている北端の海岸約六十メートルを除きますので、約四百四十メートルとなります。そして、計画している漁港がこの海岸を占める長さ、その水泳禁止区域の約六十メートル、その延長となる海水浴場分の海岸約百二十メートルの計約百八十メートルになっています。したがって残る海水浴場海岸の長さは約三百二十メートル。しかし、計画ではなくなる約百二十メートルの海水浴場に代わる砂浜は、西側の海岸に延長するとともに新しく防砂突堤(砂浜つき突堤)をつくることなどによって補うことにしていますので、結局海水浴場の長さや広さは現在と変わらない約四百四十メートル(三万五千二百平方メートル)となることになっています。

また、漁港ができることによって海水浴場に与える影響としては①水泳禁止区域がなくなるため、より安全に海水浴が楽しめる②防波堤ができるため、これまでに以上に波がおだやかとなる③これを機会に海水浴場の諸施設が整備される④などがあげられます。

なお、愛媛新聞によると漁港建設の位置は、海水浴場の真中など誤った報道がなされていましたが、これはあくまでも本紙で説明の通りです。したがって重ねて申し上げますが、海水浴場となる広さは減少することなく、しかも施設の整った従来以上に立派な海水浴場ができるのです。

## 必要とする理由

さて、それではなぜここに漁港をつくらなければならないのか、そのいきさつを説明しましょう。

### 漁場奪うどころか

## 地元漁民の 悲願の施設

新聞で報道された記事の文面によると、漁港建設を反対される人の理由に「漁場を漁民から奪う」

というようなことが書かれておりましたが、そもそもこの沖浦漁港の建設は、もう十数年も前から地元(沖浦)漁民が必要にせまられたあげく、強く町に要望していたものでした。しかし、この事業を行うためにはばく大な金がかかりとうてい地元や町だけでは実現できなかつたため、これまでののびのびになっていたのです。したがって、漁場を奪うどころか、地元漁民にとっては漁業を営むためになくてはならないものだったので

## 危険と損失多い 現状

では、そのなくてはならない理由とはどんなことかといいますと沖浦の漁協組合員百四十四人、河口利用漁船約五十隻は、これまでずっと、これといった漁港はなく町内の人ならだれでもご存知の通り、狭川河口の小さな入り江を利用してきています。ところが、いままでもなくこの入り江は、狭川の水が流れ込むため水質はほとんど淡水です。したがって、生き餌の時蔵はもちろん、せっかくの漁獲物も活魚としてイケスに蓄養することができず、これによる損失と負担は沖浦漁民の最大の悩みとなっています。また、この入り江は、少し海や狭川が荒れるとすぐ砂がたい積してしまい、たちまち使用が困難になるばかりか、河口付近には自然堆積の砂利による浅瀬があるため、とくに干潮時には、ろもかじも使用できなくなる状態。

さらに、狭川の洪水時には流水の速さも一変しこの中に船を走らせることなどはとうてい不可能となります。

とにかく、この入り江に出入りする沖浦の漁船はみな一様に必ず狭川の激流の中を通り抜けなければならぬ悩みをもっており、しげた日など入り江に船を入れることは必死の作業となっています。さらにまた最近ではこの入り江より下流に新長浜大橋が建設されているため、狭川特有の濃霧が発生しているときなどはこの橋脚に衝突しないよう出入りしなければならぬ悩みもできています。

以上の実情は、単に地元漁民のことについてだけ説明したのですが、このほか、付近一帯を航行する漁船の重要な避難港としても必要にせまられています。

このようなことから、町ではこの実情を重視、地元漁民らの悲願にこたえるため、国の漁港整備五年計画にのせて町営事業として実施するよう計画したわけです。

## 産建委員会でも 承認

ところで、この漁港建設のニュースを聞かれた人の中には、突発的なこととして受けとめられた方もあるかと思いますが、建設計画が決定するまでには、地元漁民との協議検討はいくまでもなく、四十八年二月には町議会産業建設委員会へも諮問をし承認を得ているほか、同年三月には町議会一般質問でも当時議員であり、しかも産

建委員であった小川儀三郎氏から質問があるなどして確認されており、その後において町は漁港整備計画を国へ提出したものであることを申し添えておきたいと思

## 計画は変更 しません

新聞やチラシなどで報道された一部の漁港建設反対者の意見の中に、位置の変更、規模の変更、計画の中止などを訴えるものがありました。したがって、これまでのあいだ、あらゆる角度から検討をし地元関係住民、町議会、県などを通して十分に協議され策定した計画ですから、町はいまさらこの計画を変更したり中止したりする考えはありません。と同時に、前文で説明しました建設計画の通り、海水浴場をなくすなどということは毛頭考えていないことを重ねて申し上げておきたいと思

## ご協力を

最後に、このほど地元沖浦地区では悲願の漁港建設はぜひ実現しなければと、地域住民大会が開かれ、建設促進が決議されています。

この関係漁民の実態と悲願をおくみ取りいただきまして、沖浦漁港建設の実現にご支援とご協力をお寄せくださいますようお願いいたします。